

放言相次ぐ右派論客

表題と写真は中日新聞 6 月 30 日特報である。リードから一自民党勉強会での「沖縄の二つの新聞はつぶさないといけない」などの発言が物議を醸している百田尚樹氏(59)。売れっ子作家にして右派論壇の常連であり、安倍晋三首相らとの太いパイプでも知られている。これまでの百田氏の歩みや言動をたどりつつ、ほかの保守的な考えの文化人も含めて政権との関係を探った。

百田氏は朝日放送で構成作家の道を歩み始め、代表作はバラエティー番組「探偵！ナイトスクープ」だ。50 歳の時、特攻隊員を描いたベストセラー小説「永遠の 0」で作家デビューする。13 年には「海賊とよばれた男」で本屋大賞を受賞した。(本屋大賞ということで、本書を手にしたが、初めからまったく面白くなく、すぐに読むのをやめた。私のまわりでも、同じ感想の人が何人かいた。それ以来、本屋大賞は信じないことにした。)

安倍氏との対談本「日本よ、世界の真ん中で咲き誇れ」で、二人は熱いエールを交わしている。12 年 12 月に安倍氏が首相の座に返り咲くと、百田氏も存在感を増した。13 年 11 月には NHK 経営委員に抜てきされた。評論家の佐高信氏は、二人の親和性を指摘する。「気に入らないものは脅す体質が同じ。『安倍』イコール『百田』。NHK 経営委員への登用は、公私混同というよりも、公を私物化する体質からきている」

安倍政権下で勢いづいた右派論客は、百田氏だけではない。百田氏と同時期に NHK 経営委員になった長谷川三千子・埼玉大名誉教授は、新聞のコラムで「女性の一番の仕事は子どもを産み育てること」と伝統的な家族観を披露している。そして櫻井よしこ氏。14 年 11 月 9 日、沖縄県知事選の応援で地元入りした際の講演で「琉球新報、沖縄タイムスの記事は『日本を愛するという気持ちはない』としか読めない」「本土の比較的まともな産経新聞とか読売新聞みたいな新聞が、ここでもう少し定着していくといい」と主張したという。櫻井氏の話会場取材したジャーナリストの横田一氏は「今回の百田氏の発言を聞き、すぐに櫻井氏の講演を思い出した。首相や右派論客は、自分たちと違う考え方を排除しようとしている」とみる。

(2015 年 7 月 3 日)

